

ファーン・ハージャー氏の対日功績

1. 主要経歴

米国モンタナ州ルイスタウンにて出生。カリフォルニア州にて学生時代を過ごして以来、同州に在住し、各種のボランティア活動に従事。昭和43年から昭和51年までパークレー・堺姉妹都市協会の会員及び会長として活動。昭和51年に同州サンタローザに転居後、日米交流に貢献した日本人移民の研究に勤しむ。昭和58年3月にはサンタローザ・鹿児島友好協会を設立後、平成20年まで同協会会長職を務め、同協会の活動を支えた。

2. 対日功績

(1) 日本・米国間の地域交流の促進による功績

同人は、パークレー・堺姉妹都市協会の会員及び会長として、堺市からの初めての交流団をホストファミリーとして受け入れる一方、昭和46年及び昭和48年にはパークレー市の生徒を率いて堺市を訪問した。昭和48年から昭和51年には同協会の会長を務め、同協会の草創期の活動を支えた。

昭和58年4月20日には、サンタローザ・鹿児島友好協会を設立し、以来平成20年までの25年間にわたり会長職を務め、協会の活動を支え続けた。会長職在任中は、学生交流事業の発展に尽力したほか、鹿児島市民のみにとどまらず、鹿児島県知事をはじめとした多くの日本人のカリフォルニア州訪問に際し、その受け入れに精力的に取り組んできた。

同人は、日本・米国間の地域間交流を促進してきた第一人者であり、平成17年に在外公館長表彰を受賞している。

(2) 日本・米国間の相互理解の促進による功績

同人は、日米交流に貢献した日本人移民である長沢鼎氏（双光旭日章受賞者）を研究対象とし、昭和58年、レーガン米国大統領（当時）に働きかけ、その国会演説において、長沢鼎氏と同氏により築かれた日米交流が日米間にもたらした功績の大きさを高く評価する旨言及を得ることに成功する等、地域間交流を超えた日米両国の相互理解増進にも貢献した。